

チェックシートは、コピー又はダウンロードをして御活用ください。

記入日：1回目 月 日

特別支援学級担任教員に求められる専門性チェックシート

記入日：2回目 月 日

項 目			できている	だいたいできている	少してできている	できていない	
実態把握	児童生徒	Ⅱ 児童生徒の障がいの状態、発達や生活経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの実態を的確に把握する。	☐	☐	☐	☐	
	児童生徒保護者	児童生徒本人と、保護者の希望や教育的ニーズを把握する。	☐	☐	☐	☐	
	個別の教育支援計画	Ⅳ これまで作成された個別の教育支援計画をもとに、関係機関や保護者と連携して、今後の支援や指導の計画を立てる。	☐	☐	☐	☐	
		児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえて、学校における合理的配慮の提供について児童生徒本人や保護者と合意形成を図って計画する。	☐	☐	☐	☐	
指導計画	個別の指導計画	児童生徒の実態から、具体的な目標や手立てを設定し、個に応じた指導・支援の実践に生かす。	☐	☐	☐	☐	
		実践をふり返って評価を行い、指導・支援についての計画の見直しをする。	☐	☐	☐	☐	
	年間指導計画	年間指導計画を作成したり、学級経営の目標（学級経営方針）を設定する。	☐	☐	☐	☐	
学習活動	環境設定	Ⅱ 掲示物を工夫するなどして、教室内の刺激の量を調整する。	☐	☐	☐	☐	
		構造化の手法（空間、時間、ワークシステム等）を取り入れたり、学級内のルールの明確化を図ったりする。	☐	☐	☐	☐	
		児童生徒の不器用さや感覚過敏等への配慮をする。	☐	☐	☐	☐	
	指示	注目を促してから、端的で、分かりやすい言葉を使って具体的な指示を出す。	☐	☐	☐	☐	
		具体物を用意したり、写真や図、文字などを提示したりするなど、視覚的支援を取り入れる。	☐	☐	☐	☐	
	教育課程	「特別の教育課程」について理解し、児童生徒の実態に応じて編成する。	☐	☐	☐	☐	
		「自立活動」のねらいや目標を理解し、児童生徒の実態と課題に応じた目標や内容を設定して指導する。	☐	☐	☐	☐	
		知的障がいのある児童生徒に対して行うことができる「各教科等を合わせた指導」について理解し、児童生徒の実態と課題に応じた目標や内容を設定して指導する。	☐	☐	☐	☐	
	授業	Ⅲ	児童生徒の実態に応じた学習目標を設定して授業を実施し、実施後にはふり返りを行うなどして授業改善に取り組む。	☐	☐	☐	☐
			体験的な学習活動を積極的に取り入れるなど、工夫した授業を実施する。	☐	☐	☐	☐
			学習活動の流れや内容などが分かり、見通しをもって学習に取り組むための視覚的支援を実施する。	☐	☐	☐	☐
			興味・関心を持ち、意欲的・主体的に取り組むことができるような授業を実施したり、復習など繰り返し学習する機会を設定する。	☐	☐	☐	☐
			達成感や成就感を味わえるよう、スモールステップによる指導を計画し、教材・教具や手立てを工夫した授業を実施する。	☐	☐	☐	☐
			ポジティブ行動支援の考え方を、指導・支援に生かす。	☐	☐	☐	☐
			交流及び共同学習において、「交流」「共同学習」それぞれのねらいや目標を交流学級担任や教科担任と共有し、連携して実施する。	☐	☐	☐	☐
			交流及び共同学習を実施した後は、交流学級担任や教科担任とふり返りを行うことで授業改善を行う。	☐	☐	☐	☐
			指導案	特別支援学級の学習指導案の書き方が分かり、適切に作成する。	☐	☐	☐
	評価	目標に照らした学習評価を行い、個別の指導計画の評価も踏まえて、通知表や指導要録への記入を適切に行う。	☐	☐	☐	☐	

項 目			できている	だいたいできている	少しできている	できていない
人権教育・生徒指導	行動	Ⅲ 児童生徒が適切な行動ができるよう、基本的な支援方法についての情報を集めたり、課題を分析したりして、指導・支援につなげる。	●	●	●	●
		Ⅲ 児童生徒が自分のよさに気づいて自己肯定感をもったり、家族や友だち、周りの人々を大切にできる心情や態度を養ったりできるよう、常に配慮して指導する。	●	●	●	●
	関わり	Ⅲ 児童生徒の人権を尊重し、多様性を認め、児童生徒のよい面をさらに伸ばす指導をする。	●	●	●	●
		Ⅱ 児童生徒の想いや心情を大切にしながら、本人ができることは積極的に取り組ませたり、不安感に配慮したりして、児童生徒の状況に応じた関わり方をする。	●	●	●	●
	啓発	Ⅲ 人権教育やコミュニケーションスキルの学習をはじめ、教育活動全体において、児童生徒の人間関係や仲間づくりのための指導・支援を継続して行う。	●	●	●	●
特別支援教育についての知識	特性理解	Ⅱ 障がい特性や、特性に応じた基本的な指導方法や支援方法等について理解する。	●	●	●	●
	法令・制度等	Ⅰ 特別支援教育の理念やインクルーシブ教育システム構築のねらい、合理的配慮の提供や個に応じた指導・支援の必要性について理解する。	●	●	●	●
		Ⅵ 障がいの状態に応じた福祉サービスや制度について理解する。	●	●	●	●
		Ⅱ 特別支援学級の仕組みや対象となる障がい種、入退級の仕組みについて理解している。また、特別支援学校への進学等の仕組みを理解する。	●	●	●	●
		Ⅳ トライアングルプロジェクトの考え方、ポジティブ行動支援の考え方や手法について理解する。	●	●	●	●
連携	校内連携	Ⅴ 特別支援教育コーディネーターや担任経験者の協力を得るなどして、校内委員会やケース会議などで、児童生徒の支援について話し合いながら取り組む。	●	●	●	●
		Ⅴ チームとして全教職員で共通理解した教育活動を実践していくため、教科担任等と指導の方針や児童生徒の状況について情報交換や問題行動への支援方法、授業改善等について話し合いながら取り組む。	●	●	●	●
		Ⅴ 緊急時の対応（急病・事故・災害・不審者等）について全教職員で共通理解しており、適切な対応をする。	●	●	●	●
	関係機関との連携	Ⅲ 特別支援教育コーディネーターの協力を得るなどして、関係機関等（医療・教育・福祉・労働・保健等の専門機関、当事者団体、NPO法人などの関係機関）と連携して児童生徒の指導・支援に取り組む。	●	●	●	●
	保護者連携	Ⅳ 保護者の心情を理解し、想いに寄り添うなどして適切な信頼関係を築く。	●	●	●	●
		Ⅳ 指導に関する提案をしたり、理解や協力を求めたりして、保護者と連携して一貫した指導・支援に取り組む。	●	●	●	●
進路	地域連携	Ⅴ 他校の特別支援学級担任等に相談したり、相談に応じたりするなどして、特別支援教育についての情報を共有し、日々の指導・支援に生かす。	●	●	●	●
	引継ぎ	Ⅳ 進学・転学、入退級の際の引継ぎ等、学びの場同士の引継ぎの大切さを理解し、引継ぎ資料を作成するなどして適切な引継ぎに取り組む。	●	●	●	●
	進路指導	Ⅰ 多様な学びの場があり、必要な手続きにより、柔軟な変更が可能であることを理解する。	●	●	●	●
		Ⅵ 特別支援学校や中学校、高等学校など、進路先の学校の情報を得る試みを行う。	●	●	●	●
		Ⅵ 就労について情報を集めたり、将来の就労のために今取り組むべきことを考えたりして、教育活動を実践する。	●	●	●	●
学級事務	書類作成	Ⅱ 特別支援学級において整えておくべき書類について理解し、適切に作成したり守秘義務を遂行したりする。	●	●	●	●
	会計	Ⅱ 特別支援学級における教材・教具の管理や、会計等の管理を適切に行う。	●	●	●	●

専門性チェックシートの使い方

ポイント

①

年度はじめに ☒、年度末にもう一度 ☒
（違う色でチェックするとわかりやすい！）

やってみよう！

こんなことを知っておくといいんだな。

1年間でできている項目が増えた！

ポイント

②

チェック項目を読んでわからない言葉があれば、目次の色と同じ色のページを確認
※（目次のカラータイトルと関連している内容を同じ色で示しています）

